



徳丸ゆき子さん

(大阪子どもの貧困
アクショングループ
CPAO代表)

「希望この手に」 シンポに寄せて

登壇者に聞く

沖縄を含め全国から相談がある。「頼れるところがない」との連絡があれば放置はできない。居場所と子ども食堂だけでなく、相談を聞いて子どもを預かったり、

〈4〉

食料支援をしたり。ごみ屋敷の掃除に行くこともあるし、役所に同行することもある。行っていることは、困ったときに駆け付け、話を聞いて寄り添うことだ。

当初は喫茶店でミーティングを重ねてシングルマザー100人の

つながり支え合おう

聞き取り調査をした。まずは、「食生活」「遊び」「子育て」。子どもやお母さんの声を聞きながら活動をつくり上げてきた。

簡単には当事者は見つからないし、心も聞いてもらえない。そして「解決」なんてしない。寄り添う

のは大変で、自分の生活が乱され、「何もできない」と無力感にとらわれて「やらなければ良かった」という人も出る。何のために活動しているのかを常に考えなければ続かない。私たちは「子どもの最善」という軸を、メンバーとも常に確認し合いながら進めている。制度が間に合っていない部分を民間が動いているが、本来は国が

責任を持ち、制度化しなければならぬ。だが、社会の意識が変わらないと政治は動かない。現場の活動と並行して、理解を求め、政策提言もしなければならぬ。

格差は世界的に広がりが続け、状況が良くなるとは思えない。だが、心ある人は存在する。発信すれば協力してくれる。つながり、支え合って一緒に生きよう。(おわり)

あす那覇でシンポ

シンポジウム「希望この手に」沖縄の貧困・子どものいま」が20日午後6時半から那覇市のパレット市民劇場で開かれる。入場無料。整理券が必要で、琉球新報本社・各支社、沖縄テレビ、ラジオ沖縄で配布。問い合わせは社会部 ☎098(8665)5158。